

平成 20 年度岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	普及	題名	出荷規格L(350g)を目標としたぶどう品種「サニールージュ」の花穂整形と摘粒		
[要約] ぶどう品種「サニールージュ」の花穂整形は開花初期に副穂（花穂が長い場合は上部支梗）を除去し、花穂の長さを7～8cmとする。花穂の先端は切りつめない。摘粒は果房の表・裏の支梗を各1列づつ除去する。収穫期の房重の目標は350g程度であり、収穫時の着粒数は概ね70粒前後となる。					
キーワード	ぶどう	花穂整形	摘粒	技術部 園芸研究室	

1 背景とねらい

ぶどう品種「サニールージュ」は食味良好な赤色品種として平成 17 年度に岩手県の奨励品種となった。ぶどうの高品質安定生産のためには開花期の花穂の整形と結実後の摘粒が重要な管理作業となるが、品種によって方法が異なる。

そこで、「サニールージュ」の出荷の主体となる規格 L(350g)に適した花穂の整形と摘粒の方法を明らかにする。

2 成果の内容

- (1) 花穂の整形は、開花初期（副穂の開花が始まった頃）に副穂を除去し（長い花穂は上部支梗を1～3段除去）、花穂の長さを概ね7～8cmとする。なお、花穂の先端は切りつめない。（表1、図1）
- (2) 摘粒をしていない果房は密着果房となり、裂果等の恐れがあるため、摘粒を適期に実施する。（図2）
- (3) 摘粒は果穂の結実を確認した後に実施し、具体的には、果房の表・裏の支梗を各1列づつ除去する。（表1、図3）
- (4) 以上の方法により、収穫期における房重の目標は販売の主体となる規格 L の350g前後とする。なお、収穫時の着粒数は概ね70粒前後となる。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 満開期と満開10日後にジベレリン水溶剤 25ppm の浸漬処理を行う。
- (2) 樹勢を維持コントロールするため、副梢は葉を1～2枚残して、こまめに摘芯する。
- (3) 試験樹は平棚長梢剪定樹を利用している。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等
 - ア 適用地帯：県内ぶどう生産地帯
 - イ 対象者等：ぶどう生産者
- (2) 期待する活用効果
 - ア 「サニールージュ」の高品質、安定生産が図られる。
 - イ ぶどう産地の活性化につながる（普及見込み面積：10ha）。

5 当該事項に係る試験研究課題

- (829) キャンベル・紅伊豆にかわる大衆嗜好品種の育成及び選抜
 (2000) 国内外育成の寒冷地向き品種の選抜

6 研究担当者

小野浩司 大野浩

7 参考資料・文献

- (1) 平成 16 年度岩手県農業研究センター試験研究成果「ぶどう 品種 食味良好な紫赤系品種サニールージュ」
- (2) 昭和 61 年～平成 19 年 果樹試験成績書
- (3) 昭和 61 年～平成 15 年 果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会資料

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表 1 花穂長別収穫果房の果実品質

試験区名	試験年次	房重 (g)	粒重 (g)	着粒数 (粒)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)
花穂 4 cm 区	H18	320	5.4	53	16.7	0.49
花穂 7 cm 区	H18	350	4.8	70	16.8	0.53
花穂 8 cm 区 (副穂のみ除去)	H18	359	4.7	73	16.6	0.51
花穂 10cm 区 (副穂のみ除去)	H19	433	4.5	93	16.5	0.43

各区とも開花始め期に花穂を整形

ジベレリン処理時期：1回目 H18.6.26 および H19.6.22

2回目 H18.7.7 および H19.7.4

いずれの区も果房の表・裏の支梗を1列ずつ除去する摘粒を実施。

収穫日：H18.9.5 および H19.9.6

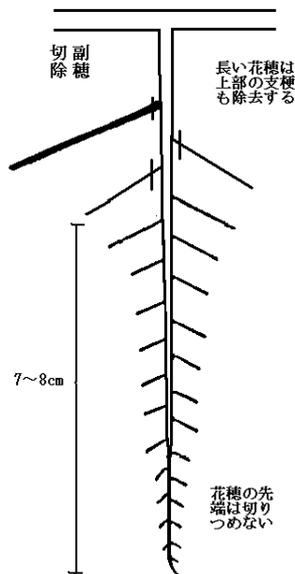


図 1 花穂の整形方法

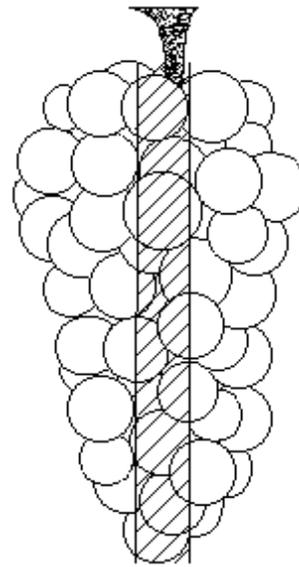


図 3 摘粒の方法
裏側も併せ1列ずつ摘粒する

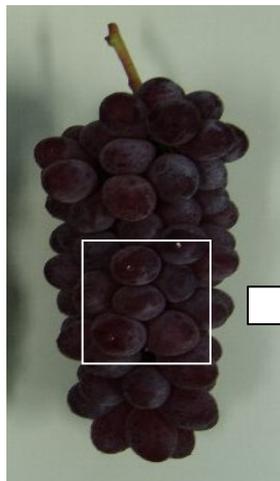


図 2 サニールージュの無摘粒果房
密着果房は裂果する可能性がある。